「活動の概要と研究成果」

NO.J2402

活動題目：インドネシア農村女性の伝統的薬草療法利用と
ウェルビーイングに関連する人類学的研究

所属： 京都大学大学院　アジア・アフリカ地域研究研究科

氏名： 杉野　好美

本研究は、ジャワ島で広く用いられている伝統薬草療法ジャムウの利用実態を把握し、公的医療から置き去りにされがちな農村部の性に着目し、ジャムウ行商婦人が女性たちのウェルビーイングの向上に果たす役割を明らかにする。課題は（1）農村部女性の特徴の解明、（2）女性が経験する問題と対処法の解明、（3）ポストコロナ禍の医療サービスにジャムウ活用の検討である。

新型コロナウィルスの蔓延や報告者が産後の育児で現地調査の実施が難しい時期、重点的に文献調査を行った。政府や地方自治体から母子保健のデータやサービス、コロナ禍の政策を、先行研究からインドネシア女性の健康課題やインドネシアの女性全般、ジャワの健康観、ジャムウ等である。成果は(1) 2022. Relationship between Customers and Jamu Gendong in Central Java, Indonesia: Focusing on the Use of Herbal Beverages in Daily Life. People and Culture in Oceania 38:51-67. (2) 2024.『薬草とともに生きる―インドネシアのジャムウ行商婦人と顧客―』風響社である。

現地調査は2023と2024年度に行い、初回は本調査の準備、課題1と2は女性向けジャムウの市場調査と聞き取り、課題3はコロナ前後の状況やジャムウの利用等聞き取りを行った。現地調査の一部を台北の伝統医療の国際学会で口頭発表を行った。Indonesian Traditional Herbal Beverages as Health Behavior: Contribution of Jamu Peddlers in Health Improvement and Disease Prevention in Central Java. Joint Conference of IASTAM and ASHM 2024.

2024年度の本調査は、中部ジャワ州農村部で妊娠期や授乳期、5歳以下の子のいる母親187人に半構造インタビューを行った。また医療従事者（村の助産師等）に母子保健サービスや女性の健康課題を、ジャムウ行商婦人や薬草販売業者には女性向けジャムウやその利用状況を聞き取った。行商婦人のジャムウは、地域社会の健康資源の1つとして、女性のライフステージで起きる病気ではない身体的変化や症状に対して一翼を担っていた。また近代医療では解釈されない分野（イスラーム教では産後の不浄な状態等）にジャムウが利用されていた。成果は、博士論文として執筆中で、本年度提出を予定している。